

新任理事のご紹介

鳥光 恭介 理事 〈会計部〉



理事に就任しました鳥光と申します。税理士法人、事業会社経理と渡り歩き、現在は津田沼で独立しております。
ダブルライセンスを生かし微力ながらお役に立てるよう尽力致しますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

森 一真 理事 〈地域振興部〉



地域振興部の森一真です。前職は総合化学メーカーでエンジニアとして勤務していました。協会では研修部委員の活動実績があり、特産品・観光研究会では幹事をしています。どうぞよろしくお願いいたします。

田久保 泰夫 理事 〈会員支援部〉



会員支援部に所属し、診断士祭り等の開催をサポートしています。
普段は、「知財を活かして会社を元気に!!」をモットーとして、弁理士・中小企業診断士として活動しています。よろしくお願いいたします。

トピックス

●コロナに翻弄された今年度の千葉県協会会員向け行事

今年度は4/4に予定していた春の診断士祭りが中止。その代替策として、新入会員や入会希望者向けの説明会を5月に4回に分けZoomで開催。新入会員の研究発表の説明会である新入会員研修会も7/4にZoomで開催。

10月の秋の診断士祭りはリアル開催も、密を避け会場定員の半数以下での開催、またZoomでも配信とコロナ感染拡大に細心の注意を払って何とか無事終了。

新入会員の1年間の研究発表の場である新春懇親会も1/16にZoomで開催と、ほとんどの行事がオンライン開催となってしまいました。

手探りで進んできた1年間でしたが皆さんは楽しんでいただきましたか? 来年度は皆さんが安心して会場で名刺交換ができることをただただ祈っています。



新入会員説明会



秋の診断士祭り

編集後記

今年度のアンフィニ編集会議は一度も集まることなく、メールでのやり取りで終わってしまいました。例年であれば会議終了後食事をしながら情報交換と和気あいあいとしたムードで開催していたのですが、そういう意味では今年度はとても「顔が見えない」寂しい活動となってしまいました。

編集長の私自身もう少しくまぐ運営できたのではと反省しきりですが、編集委員の方がコロナ禍の中頑張ってください例年以上に充実した内容になったのではと思っています。

特に新入会員の方はアンフィニをご覧になって少しでも千葉県協会のことを理解していただけると嬉しいです。

アンフィニ編集委員は随時新規会員を募集していますので我こそはという方はぜひ参加してください。引き続きよろしくお願いいたします。

(編集委員長・会員支援部理事 桂川 慎一)



CONTENTS

事務局NEW FACE紹介	1
一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会の近況 会長 今井 和夫	2
女性診断士座談会 ～支援先を暖かく照らし、自らもキラキラ輝く～	4
withコロナ時代の理論政策更新研修ができるまで	10
新型コロナと生きる千葉の診断士 コロナビフォーアフター	12
寄稿から浮かぶ独立診断士と企業内診断士の活動 コロナ禍の一年を振り返って	17
2021年 新入会員研究発表	18
令和2年度 千葉県中小企業診断士協会 新体制のご紹介	22
新任理事のご紹介・トピックス・編集後記	24

事務局NEW FACE紹介

今年度より事務局の体制が一新しました。
みなさんよろしくお願いいたします!



川島 妹子さん 〈毎日出勤〉

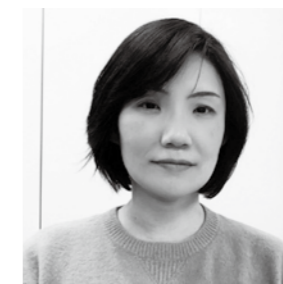


就業から早いもので10ヶ月が過ぎました。とまどい、迷いながらも多くの方々のご協力により、学びのある年となりました。

趣味はレディースデイに映画を観ることです。人生最後の一口に食べたいものはシャインマスカット。お酒は苦手ですが、その分美味しいものへの興味は止みません。

新体制となり、顔ぶれも心機一転しております。どうぞよろしくお願いいたします。

田邊 ゆかりさん 〈月・木・金出勤〉



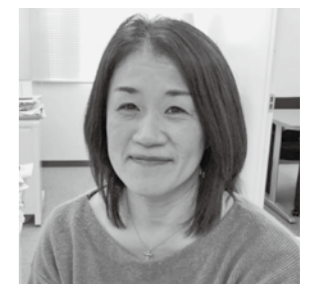
昨年9月に就業しまして、保証協会、会員手続きを担当しています。

高校生と中学生の娘がいるので、家では毎日”女子会”という感じで、賑やかな日々を送っています。

主人の転勤で9年間神戸に住んでいましたが、一昨年やっと地元の千葉に戻ることができました。

これからは、千葉巡りを楽しみたいと思っています。

阿部 美知恵さん 〈月・火・水・金出勤〉



昨年9月よりお世話になっております。

担当業務は主に押印関係で、メール等では先生方からいつも元気ももらっています。

まだまだ不慣れな点が多々ございます。ご指導よろしくお願いいたします。

只今減量中! あっ、ずっとでした(笑)。

一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会の近況

会長 今井 和夫



会員みなさん

千葉県協会会長の今井和夫です。日頃より協会運営にご協力いただきありがとうございます。アンフィニ発刊に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

今年度は、まさに新型コロナウイルスに始まり、新型コロナウイルスで終わる記憶に残る年度になりそうです。協会運営においても、研修会、イベント、理事会、会議等の多くがWEB対応となり、運営側の理事や委員の方々にも大きなご負担をおかけすることになってしまいました。あらためて御礼申し上げます。

千葉県内の多くの中小企業が新型コロナウイルスによってマイナスの影響を受けており、個人的にもその対策等の支援内容が多くなっています。今回の外部環境の変化は、一過性に終わることなく、世の中の仕組み等を大きく変えてしまうきっかけにもなり得ると考えております。先が見通せない中で、未来志向の士業である我々中小企業診断士の活躍が大いに期待されていると感じています。



一方で、独立診断士、企業内診断士双方において、診断士としての実力が試される時でもあると考えます。現状を踏まえ、外部環境の変化に柔軟にどう対応していくべきか、支援

企業、自社、取引先等に提案し、伴走していける実力を育てるよう、日ごろのインプットとアウトプットをバランスよく実施しているかが試される場面と考えます。実力を向上するために協会活動を是非ご活用し、積極的にご参加ください。特にアウトプットの機会を是非つくってください。インプットだけでは実力は向上しませんし、インプットしたことも身につけません。企業内の方でも参加できる協会事業は増えておりますし、各研究会等でも積極的にアウトプットの機会を増やしております。診断士となったからには一生勉強です。共に勉強し、自己実現を目指していきましょう。

さて、私が会長に就任し、4期7年が経とうとしております。就任当初に協会運営のために掲げた3つの重点項目につきまして、報告をさせていただきます。

1. 協会運営に当たっての体制整備

法人としての体制づくり、事務局の整備についてですが、特に事務局体制については激動の年度でした。今年度は事務局職員が全員入れ替わったことにより正直混乱が生じ、会員みなさま方にも多方面でご迷惑をおかけしてしまいました。あらためてお詫び申し上げます。現在協会では、プロジェクトチームである業務改善チームを発足し、山本副会長をチーフに事務局の事務の標準化、生産性の向上等を進めております。まだしばらくご迷惑をおかけしてしまう場面もあるかもしれませんが、少しずつではありますが前進しております。今しばらくお時間

をいただければと思います。

また、法人としての体制づくりですが、今年度は特にコンプライアンスに関して重点的に強化しました。理論研修では3回とも講義内容に入れ、令和3年1月からは、コンプライアンス研修を受けていなければ、協会事業に参加できないことにしました。理論研修に出席できなかった方については、WEB研修を受けていただいております。中小企業診断士の知名度が少しずつですが上がってきている今こそ、コンプライアンスを遵守していくことが重要と考えます。

2. 連携体制の強化

協会内部の連携としては、研究会活動がコロナ禍の影響で制約があり、なかなか活発な活動ができなかったと思います。また、北海道への研修旅行や春の診断士祭りの中止など、大変残念な年度となってしまいました。一日も早くコロナ禍の影響がなくなり、協会内のコミュニケーションが再び活性化することを願うばかりです。

外部との連携としては、地域振興部（主に支援機関との連携）と経営支援部（主に金融機関との連携）を中心に合同の営業会議を引き続き毎月実施しており、支援機関や各金融機関との連携を深めております。特に今年度はコロナ対策の相談窓口事業が増え、企業内の方も含めて多くの会員みなさまにご協力いただきました。千葉県内の中小企業支援には、千葉県協会が欠かせない存在となるよう引き続き活動を進めてまいります。

3. 協会のレベルアップ

われわれ中小企業診断士のブランディング戦略を展開していくに当たり、今年度は特に協会HPについて再検討しました。現在協会では、プロジェクトチームであるHP運営チームを発足



し、石井副会長をチーフに協会HPのリニューアルを進めています。ターゲットに基づいたHP制作に心掛けました。リニューアルまではもうすぐです。

品質の向上に関しては、やはりコロナ禍の影響がありました。このような中でも「事業承継支援専門家養成研修」やポリテク千葉の「生産性向上支援訓練事業」、「プロボノ事業（企業内診断士が参加する支援機関と連携した企業診断）」「実務従事事業」を実施することができました。各研修とも参加者が多く、内容も充実しておりました。運営側のみならず、ご協力ありがとうございました。千葉県協会としては、会員みなさま方のインプットの場、アウトプットの場の提供に引き続き努めて参ります。

会員数については、現在350名を上回り、現在の直近の目標会員数400名に近づきつつあります。今後も独立診断士、企業内診断士ともに魅力を感じていただける千葉県協会であるよう努力し続け、是非目標達成したいと考えております。

会員みなさまにおかれましては、千葉県協会の活動に積極にご参加いただき、自らが主役となって中小企業診断士としての活躍の場を広げていただければと考えております。引き続きご協力のほどお願いいたします。

女性診断士座談会

～支援先を暖かく照らし、自らもキラキラ輝く～

江崎美季子さん (以下江崎)

坂本ゆみかさん (以下坂本)

下田 由美さん (以下下田)

長門 理恵さん (以下長門)

渡邊 奈月さん (以下渡邊)

インタビュアー 川瀬 朋子



はじめに

中小企業診断士全体に占める女性比率は、10%未満。他土業の女性比率が15～20%であることを鑑みても、まだマイノリティな存在です。この座談会では、千葉県協会で活躍している女性診断士にお話を伺い、「女性診断士のリアル」を紐解いていきます。

緊急事態宣言中のため、ZOOMにて行われた座談会の様子をお届けします。

1. 活躍フィールドは色とりどり

▶現在の活動内容をお聞かせください。

(長門) いくつかの研修会社に登録してお仕事をいただき、日本全国を飛び回って研修を行っています。他には補助金関連のお仕事や、商工会議所の相談員、執筆活動、創業セミナーの講師なども手掛けています。民間と国の仕事で半々くらいです。



坂本 ゆみかさん

映画興行会社にて劇場マネジメント、WEB制作会社にてWEBマーケティング全般を経験後、2014年資格登録と同時に独立。大学院でIT経営領域の講義を担当するほか、窓口相談やセミナー講師として活躍中。

(渡邊) 会社勤めの傍ら、副業として診断士活動を行っています。IT企業での勤務経験やマーケティングの経験を生かして、中小企業から依頼を受けて、ECサイトやWEBサイトを作っています。

ITやマーケティングに関するセミナー講師もやっていて、最近はYouTubeやGoogleマイビジネスに関する引き合いが増えています。

(坂本) 独立するときに養成課程でお世話になった教授に声をかけてもらって以来、大学院の講師をやっています。ITコーディネータの資格を生かして、ITと経営をどのように結びつけるかについて教えています。

他にも、中小機構のIT推進プロジェクトのお手伝いをしたり、セミナーや研修の講師をしたりと、ITを軸に活動しています。直近では、ITコーディネータの仲間と中小ビジネスのデジタル経営を支援する組織(合同会社デジトレ)を立ち上げました。

(下田) 複数の民間企業と顧問契約をして、内部まで深く入り込んで支援をしています。支援先の企業は、業態転換や事業承継といった転換期のタイミングで関わっているため、組織作りや風土変革、営業戦略など、ありとあらゆる課題に取り組んでいます。

他には、東京都中小企業振興公社で製品開発コーディネーターとして、都内の中小企業の産



渡邊 奈月さん

ITベンチャーと通信会社にて、プロダクトマネージャー、サービス企画、人事、経理など幅広く経験。2015年資格登録。「お客様の3年後を形に」をスローガンに、中小企業のWEBマーケティング全般を支援。企業内診断士。

学連携プロジェクトに関わっています。変わった資格としては、レゴシリアスプレイのファシリテータを持っているので、レゴを使った戦略策定のワークショップを手掛けることもあります。

(江崎) 私は医療分野出身の経験を生かして、医療機器開発コーディネーターの仕事をしています。主に千葉大学医学部附属病院で、医療とものづくり企業をつなぐコーディネートを行っています。

他には、女性の創業支援も行っています。創業を目指す人と、創業して間もない人に対して、定期的に面談してビジネスプランが進捗しているかを確認するなど、伴走支援をしています。

▶お仕事のやりがいは、どのようなものでしょうか？

(長門) 研修後、受講生のアンケートで「とても面白かった」「また受けたい」とフィードバックをいただくことがあり、非常にモチベーションを感じます。私の研修では、受講生同士のワークをたくさん取り入れているので、満足度を感じて頂けているのかもしれない。

(坂本) 経営者と直接お話できる機会が多く、机上では学べないことをたくさん得ることができます。経営者の課題に対して、自分の強



下田 由美さん

民間企業で海外ファッションブランドのビジネス全般の統括を経験。千葉市産業振興財団に在籍中の2017年に資格登録。2019年に独立し、民間企業の顧問や東京都の産学連携プロジェクトのコーディネーターとして活躍。

みを発揮してお役に立てた時にやりがいを感じます。私が専門としているIT分野は技術進化が速いので、追いつくのが大変ではありますが、常に新しい技術に触れることができ楽しいですね。

(江崎) 医療機器開発コーディネーターと創業支援、両方に共通しているのは、ものを新しく作っていく過程に携わることができる点です。新しい医療機器が生まれれば、社会全体が良くなるかもしれない。より良い未来に貢献できている感じがします。

女性の創業支援は、支援している方々が課題を解決して前に進んでいくのを見るのが嬉しいです。皆さん前向きで、目がキラキラ輝いていらっしゃるんですね。

2. 女性診断士であることのメリットとは

▶女性ならではの活躍ができているな、と思ったことはありますか？

(長門) 女性ならではのきめ細かい視点が評価されたことがあります。以前、多くの女性が働くコールセンターの支援に関わったことがありますが、西日がまぶしい窓にカーテンを付けたら働きやすくなるのでは、と提案したことがありました。支援先の担当者からは「他の男性診断士は誰も気づかなかった」と感心されました。

(坂本) ネイルサロンやアロママッサージなど、女性をターゲットにしたビジネスの経営者や創業者からは、女性診断士のご指名を頂きやすい傾向があると思います。私たち自身が診断士目線、顧客目線の両方でアドバイスできるからでしょうか。



長門 理恵さん

国内・海外の損害保険会社にて管理業務を経験後、2017年に資格登録。2019年に独立し、民間会社の講師業務を中心に活動中。補助金関連業務や執筆活動、女性起業家の支援や創業セミナーなど幅広く活躍。

(下田) 女性の創業者から、プライベートについても相談を受けることがあります。創業することをご主人が良く思っていないとか、育児との両立をどうしようとか……。同じ女性だから相談しやすく、受け止めてもらえる安心感があるのだと思います。

(江崎) うまく空気を読んでコミュニケーションをとる力も、女性の強みかもしれません。医療機器コーディネーターは、医療従事者と中小企業の間に入って調整や仲介をする必要がありますが、ちょっとした感情の機微を感じ取り、円滑に進めていく力がポイントになります。



▶診断士が支援者に対して「上から目線」で接すると、トラブルになることがあるとも聞きます。

(下田) 女性の柔らかい雰囲気、厳しい場面で緩衝材になっているのかもしれませんが。私の場合、支援先の企業にかなり率直な内容を伝えなくてはならないことがあります。話し方は柔らかいですが、ズバツと直球の内容を伝えるのです。支援先の経営者が従業員に「下田さんが男性だったらキレていたかもしれない」と言っていたとお聞きしました。私が男性だったら、顧問契約を解除されていたかもしれませんね(笑)。

(渡邊) セミナーや研修の仕事では、女性講師であるだけで引き合いが来ることが多いです。



江崎 美季子さん

国内製薬会社にてMR、製薬系広告会社と外資医療機器メーカーにてマーケティング全般を経験。2019年資格登録と同時に独立。女性の創業支援や、医療機器開発コーディネーターとして活躍。

「女性だから依頼しました」と、率直にフィードバックを頂いたこともあります。民間企業の研修では、依頼元の企業から女性講師希望のオーダーが多いことが背景にあるようです。

商工団体主催のセミナーでは、チラシに女性講師の写真が入るだけで申込数が倍増すると聞いたことがあります。

(長門) 研修講師の仕事では男性の受講生が真面目に聴いてくれることが多いかもしれません。「女性の先生だからちゃんとしなくては」と感じていただいているのでしょうか。

▶逆に、女性診断士としてデメリットを感じたことはありますか？

(全員) 全くありません。

(下田) 診断士協会の集まりでは男性が圧倒的に多いので、女性が少なくて寂しいと思うことはあります。裏を返せば目立ちやすいということなので、悪目立ちしないように気を付けなくては(笑)。

(長門) そもそも、仕事では性別は意識しておらず、一人の人間として責任を果たすことを重視しています。

(下田) 私たちの仕事は、お客様の課題を引き出して、良い方向に持って行き、成果を出すことです。性別は関係なく、個人の支援の質が重要ではないでしょうか。

(坂本) 女性で診断士になろうと思う人は、いい意味で個性的というか、芯が強い人が多いように感じます。そもそも性別や年齢を意識しないことが多いのでは？

3. 心を尽くし、親身になって寄り添う

▶診断士として活動する中で、最高の瞬間を教えてください。

(下田) 千葉市産業振興財団にいた時、ある女性の起業家の創業を支援したことがありました。小さいお子さんを育てながら、製品開発をして起業された方です。ご自身のビジネスをPRするためにビジネスベンチャーカップに応募することをお勧めしたのですが、「人前に出るのは苦手」と、最後まで悩んでおられました。

それでも、ベンチャーカップに出ることを決意して、ゼロから一生懸命プレゼンテーションを学んで、最終選考では今まで見たことのない素晴らしいプレゼンテーションを行い、高い評価をもらいました。その後、千葉県内の様々な賞も取ることができて、「人ってここまで変わるんだな」と。支援してよかったなと、胸が熱くなりました。

▶下田さんは何を大切に、その方に関わったのでしょうか。

(下田) メンタル面にとことん寄り添い、一番の応援者になりました。その方自身がやろうと決意するまで、じっくり向き合いました。「やりたくないならやらなくてもいい。でも、私はこの内容ならば賞を取れると思う。できる限り支援するので、一緒にやりましょう」と。

プレゼンも不安でたまらない様子だったので、何度も練習に付き合いました。ベンチャーカップ当日は「私だけを見てプレゼンすれば大丈夫」とお伝えして、「大丈夫、ちゃんとできていますよ」と、うなずきながら会場で聞いていました。

今では女性経営者として自信に満ち溢れ、色々な新聞やメディアで取り上げられています。

▶そこまで親身に支援することは珍しいのでは？



(下田) 確かにそうかもしれません。ただ、やるからには目に見える結果を出してほしい。そのために必要だと思ったのでやりました。

▶長門さんにとって、最高の瞬間は？

(長門) ある女性起業家が経営難を乗り越える支援をした時のことです。その方とは診断士になって1年目に、研究会の関係で出会ってからしばらく連絡が途絶えていたのですが、資金難で経営が行き詰まった時に、私を思い出して連絡をくださったのです。精神的に落ち込んでいる状態だったので、私も腹を割ってとことん向き合いました。「将来の夢を実現させるために、何とかこの状況を乗り越えましょう」と、何度も声をかけて。想いが通じたのか非常に喜んでいただけて、モチベーションも上がり、経営も立ち直ったということがありました。

▶その方にとって、長門さんはどのような存在なのでしょう？

(長門) その方は今も継続的に支援させていただいており、「何かあった時に私がついていきますよ」と、精神的な支えになっていると思います。その方が実現したい夢を大切にしながら、財務面など課題解決のアドバイスも行っています。

4. 経営者自身が自走するのが最高の喜び

▶診断士の仕事にやりがいを感じるのは、どのようなときでしょうか。

(坂本) 少し前にご夫婦でビジネスを始めた方に、販路開拓やプロモーションの相談に乗ったことがあります。最初はこちらで計画書のフレームワークを用意して議論していたのですが、いつの間にか自分たちでプランニング、実行、振り返りができるようになって、「新しく卸先が決まりました」とか「取材を受けることになりました」とか、嬉しい報告をくださるようになりました。

伴走支援をしているうちに、いつのまにか自走できるようになっていくのを見るのは、最高に嬉しいです。

▶自走できるようになったのは、なぜでしょうか？

(坂本) 私の場合はIT絡みの相談が多いこともあり、お客様が腹落ちするように、難しい専門用語を使わず、わかりやすくお伝えすることを心掛けています。例えばマーケティングでは、オンラインとリアルは全てつながっていて、集客、接客、追客をぐるぐる回す必要があると。実際につながりの弱いところを分析して、ここを強くしたほうがいいですねとお伝えします。

このようなアドバイスも織り交ぜて、キャッチボールをしながらPDCAを回していく。すると、ご自身にノウハウがどんどんたまって、自走できるようになるのだと思います。



(渡邊) 最近、支援先の企業がご自身でマーケティングを回せるようになるケースが増えてきたことがとても嬉しいです。ペルソナを設定したり、心のこもったDMを作ったりと、私が思いつくよりもずっと素晴らしいものが出来上がっている。私が関わることでマーケティングを回すきっかけになれたのかな、と実感できることがやりがいですね。

自走していただくために、何事も「自分ごと」として真剣に考えてもらえるように心がけています。最後は決めるのは経営者。企業支援でもセミナーでも、いくつか選択肢を用意して、最後は自分で決めていただくようにしています。

(江崎) 私も、支援先の企業が自走できるようになっていくのを見るのが、とても嬉しいです。医療機器の開発というのは、医療関係者とのコ

ミュニケーション構築方法が特殊な世界ですから、最初は面談と一緒についていって手取り足取り教えて差し上げます。最近関わった企業様は、コミュニケーションのコツをつかんで自ら積極的に行動し、保険適用を経て、現在発売に向けて準備できる段階までこぎつけました。

5. 今後の展望

▶数少ない女性診断士として道を切り開いてきた皆様の、今後の展望をお聞かせください。

(坂本) 今までの経験や知見を活かして、中小企業のデジタル経営をより一層支援していきたいです。昨年立ち上げた「デジトレ」というサービスは、中小ビジネスのデジタル化のレベルが簡単に診断でき、その先の導入相談や活用サポートを行うものです。診断士の皆様とコラボレーションしながら、より良いサービスに育てていきたいですね。

(長門) メインとしている講師業の質を上げながら、新しいこともどんどん挑戦していきたいです。私のモットーは「ひとりひとりの人を大事にしたい」ということ。支援先の経営者や従業員、研修の受講生のモチベーションや夢、生きがいを大切にしていきたいです。

(下田) 私はずっと、見えない価値であるブランドの仕事に専門としてきたので、それに関する本を出したいと思っています。また、現状は企業を支援する立場ですが、事業会社を作って自分が経営者になり、人を採用することをやってみたい。経験して初めて経営者の大変さがわかると思うし、支援の内容にも真実味が出てくると思うのです。

(渡邊) 新型コロナウイルスの影響でデジタル化が急速に進み、ITやWEBマーケティングが使えない企業や個人事業主は、残念ながら取り残されてしまう世の中になっています。大上段に構えずに、ITを当たり前活用できる方法を



お伝えしながら、中小企業のWEBマーケティングを支援していきたいです。

(江崎) 私が診断士を目指したきっかけは、「日本の優れたものづくり中小企業を支援したい」という想いです。その信念を大切にしながら、中小企業の医療分野への進出支援を追求していきたいです。

6. 楽しくチャレンジすれば道は開ける

▶診断士を目指す人や、今後本格的に活動していきたい人に向けて、メッセージをお願いします。

(坂本) 今は働き方や人生観が劇的な変化を遂げている時期だと思います。男女問わず、パレルキャリアなど多様な働き方や生き方がどんどん広がってくるのではないのでしょうか。自分の価値観を大事にして色々なことにチャレンジしてみたい方は、ぜひこの業界に飛び込んでいただき、一緒に働くことができれば嬉しいです。

(渡邊) 特に、女性診断士は活躍の場がたくさんあるので、ご自身がやりたいことにフィットする仕事があると思います。「仕事があるかどうか不安」と思っている方は、ぜひ前に一歩踏み出してみたいかがでしょうか。

(江崎) 仕事をする上では性別は関係ありませんが、女性だから声をかけてもらいやすいという優位性があるのも事実ですので、ぜひ生かしていただきたいです。また私自身、診断士とし

て独立して、学びの連続である毎日を楽しんでいます。ぜひこちらの世界に飛び込んでいただきたいですね。

(長門) この間、最近独立した知り合いの女性診断士から「自分には何も強みがない。しっかりやっけていけるか不安だ」と、お悩み相談を受けました。私が独立した時も全く同じ状態でしたが、過去を振り返ってみると、何事もまずやってみて、実践の中で自分の強みがわかってきたのだと思います。もしも強みがないと思っても、途中で気づく瞬間がきっとあると思いますので、まずはチャレンジしてみる事が大切ではないでしょうか。

(下田) 同感です。経験のない仕事でも、何事もワクワク楽しんでやってほしいですね。やってみてうまくいかなかったとしても、次の糧にすればいいのです。そこに仕事があるからやるのではなく、自分がやりたいことをコンコンとノックしてやってみると、どんどん新しい道が開けていくのではないのでしょうか。

おわりに

女性診断士の皆様のお話を伺って、共通していることが2つありました。1つ目は、コミュニケーション能力を生かしながら、支援先の経営者に親身に寄り添う姿勢。2つ目は、ご自身のキャリアと経験を生かしながら、きめ細かな伴走支援を行っていることです。中小企業の良き伴走者に求められる資質として、性別問わず大切であることを実感しました。

座談会中、参加者の皆さんが楽しそうにニコニコとお話しされていたのが印象的でした。ご自身がやりたい仕事にチャレンジしながら、支援先のお役に立って、また次のステージを目指す。そんなサイクルを回している皆様から、今後も目が離せません！

編集委員 川瀬 朋子



withコロナ時代の理論政策更新研修ができるまで

令和2年度は、コロナ禍の影響により国内の様々なイベントが中止に。一方、千葉地区の理論政策更新研修は、例年と変わることなく3回の開催を終えることができました。

ただ、研修が実現に至ったのは、各回のリーダーを中心とした研修部委員による多くの議論と対策があったからこそ。コロナ禍における研修開催にあたり、裏側ではどのような物語があったのか、研修部委員の皆様にお話を伺いました。

令和2年度研修開催にあたって

理論政策更新研修担当理事

麻畑 紀美子 理事

コロナウイルス感染症の影響が拡大する中、どのような研修を目指すべきか、研修部委員それぞれの方向性を揃えるため、以下の方針を決めました。



- 1) 受講者が安心して参加できること
- 2) コロナウイルス感染症に対し、安全面が考慮されていること
- 3) 希望者は概ね参加できること

この方針のもと、それぞれが知恵を出し、労力を厭わず準備を進めてくれたことに感謝すると共に、何事もなく無事に終了できた際は本当に安堵しました。

リアル開催の決断

<第1回> 7月11日

於：TKPガーデンシティ千葉

森 一真 リーダー

今年の理論政策更新研修、私は第1回研修のリーダーを担当しました。

例年どおりの研修準備を進める



つもりでしたが、コロナの感染が拡大。新入会員研修のようにオンラインでの研修も検討しましたが、受講確認が困難ということで、リアルでの研修開催になりました。

コロナ感染リスクがある中、安全な研修を行うにはどのようにすればよいか検討し、入場時検温、指定席制、整列退場などの対策を立て、体温計等備品の購入、受講者への事前告知等を実施。当日も検温等、これまでは無かった対応を行った結果、問題なく第1回研修を開催できました。

初めてのことばかりでいつもより多くの対応が必要でしたが、メンバー全員が協力して乗り切ることができました。



初のシアター形式による開催

<第2回> 9月13日

於：船橋市勤労市民センター

石村 飛鷹 リーダー

第2回はシアター形式の会場でした。前例がなく、また十分な感染防止策が取れるか最初は心配でしたが無事に開催することができました。受講者同士の距離を1m以上確保するため、400名入る会場を100名で利用しました。会場下見を行い、受付から誘導・修了証のお渡しまでどのようにすれば感染リス



クを抑え、かつスムーズに開催できるか議論を重ねました。麻畑先生が7月開催の実績や反省点をまとめて下さっていたため対策を考えることができました。

当日は想定外のこともありましたが、研修部委員が臨機応変な対応をしてくださり助けられました。スムーズな開催にご協力いただいた受講者の皆さま関係者の皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。



全員の協力に感謝

<第3回> 11月15日

於：千葉県教育会館

石井 暢彦 リーダー

今回、新型コロナウイルス感染症への様々な対策を行っての開催となる中で、リーダーとしての一番の不安は従来とは違う方式が受講者の方々に受け入れてもらえるかでした。ただ、終わってみればすべて杞憂でした。マスク未着用で来場される方は一人もいませんでしたし、指定席制についてもご理解いただき、修了証交付の際には皆様順番を守ってくださいました。



受講者の皆様にご不便をおかけする中で、スムーズな進行にご協力くださいましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。また、受講し

やすい環境となるよう、受講者の方へのお声かけや誘導等、柔軟に対応された研修部委員の皆様にも感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



3回の研修を終えて

研修部長 茂木 俊裕 理事

研修部では、すべての研修イベントについて、理事に加え研修部委員が関与し企画から運営まで行っています。



今年度は上述の通り、各リーダーが中心となり、一丸となって対応いたしました。

実は、オンライン開催についても検討したのですが、様々なリスクを協議した結果、今回はリアルで行うことといたしました。

とにかく無事に開催・終了できましたことに感謝いたします。皆様、本当にありがとうございました。

来年度の研修については、今後検討を進めていきたいと思っております。

それでは、今後とも研修部イベントにご協力をよろしくお願いいたします。



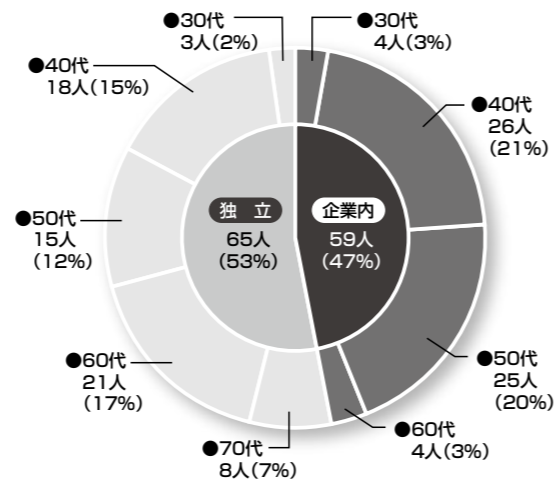
編集委員 田村 将史

新型コロナと生きる千葉の診断士 コロナビフォーアフター

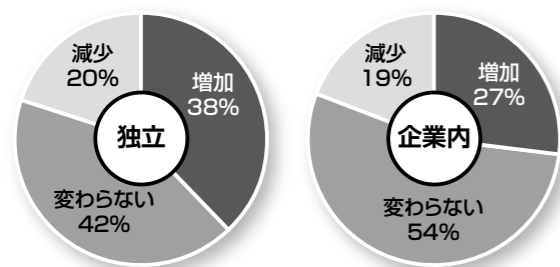
～アンケートから浮かぶ診断士の活躍～

コロナ禍の活動について、千葉県中小企業診断士協会会員へアンケートを行い124名の方から回答頂きました。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。2020年4月の緊急事態宣言後の第1波、夏の第2波後、第3波の始まった12月時点での回答の集計です。

皆様の割合は右図の通りです。独立診断士と企業内診断士ほぼ半数であり、質問毎に人数の傾向が異なるため、アンケート結果は、独立と企業内それぞれの割合で分けてまとめております。

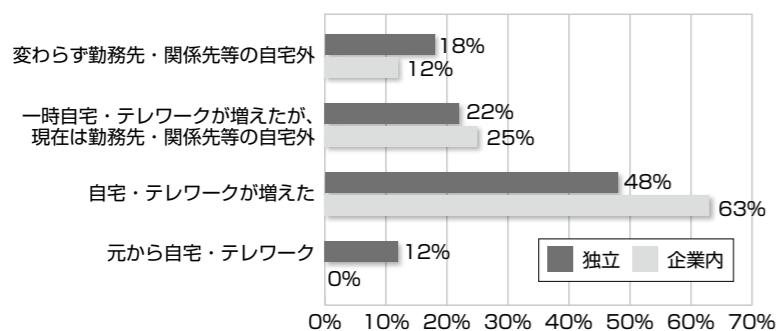


コロナ後業務・勤務時間に変化はありましたか？



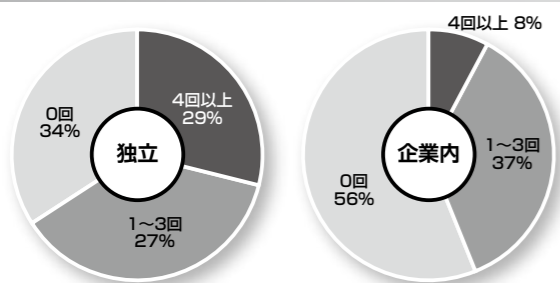
独立診断士の業務時間増加が目立ちます。内閣府の調査¹では勤務時間の「やや増加」や、「増加」等が全業種平均で8.9%あり、診断士は特に業務時間増加が多いと言えます。

コロナ後業務・勤務の場所に変化はありましたか？



独立、企業内共に「自宅・テレワークが増加」と回答した方が多くを占めています。生活スタイルの変化が浮き彫りとなりました。

コロナ後千葉県協会の「オンライン」による研究会にはどのくらい参加しましたか？

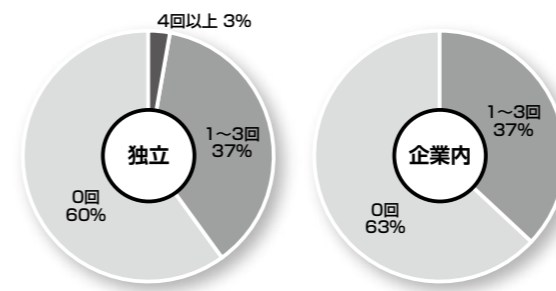


独立診断士の方が積極的にオンラインの研究会に参加しているようです。

今までの対面から、コロナによりオンライン化した研究会への移行が進んだ結果となりました。

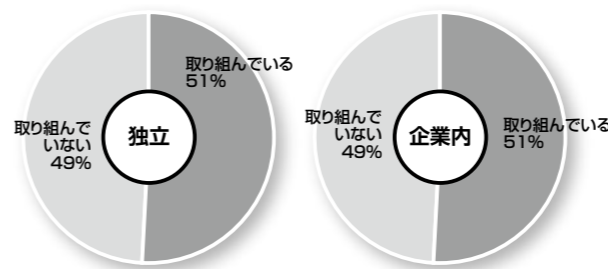
¹ 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査(令和2年6月21日 内閣府)
<https://www5.cao.go.jp/keizai2/manzoku/pdf/shiryo2.pdf>

コロナ後千葉県協会の「対面」による研究会にはどのくらい参加しましたか？



対面による研究会参加0回が6割を占めており、対面での研究会開催が少なくなった影響が出ています。

コロナ後健康増進のため何か取り組んでいますか？

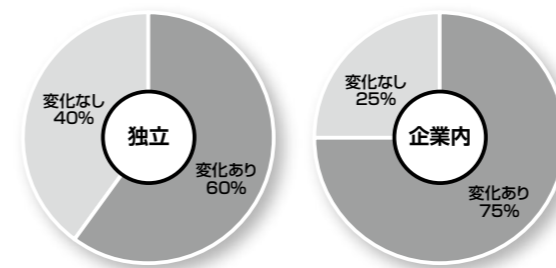


□具体的には？

- ・ウォーキング、散歩
- ・ジョギング、ランニング
- ・ストレッチ、ラジオ体操
- ・スポーツジム、筋トレ
- ・スポーツ、運動
- ・食事制限、健康食品
- ・手洗い、うがい

このほか、続ける手段としてスマートウォッチやゲームの活用がありました。

コロナ禍前後で使用するツールや周辺機材に変化はありましたか？

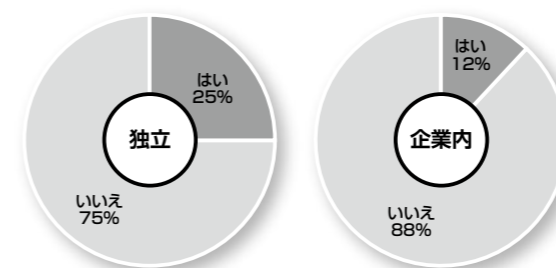


□具体的には？

- ・Zoom、(Microsoft) teams (Google) Meet
- ・webカメラ
- ・ヘッドセット、マイク
- ・ディスプレイ、PC、Wi-Fi
- ・机、椅子

オンライン会議に必要なツールが多く挙がりました。

コロナ後にご自身で新たなサービスやコンテンツを作成しましたか？



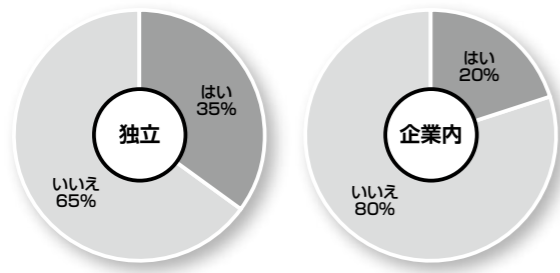
□具体的には？

- ・セミナー、動画セミナー
- ・研修コンテンツ
- ・補助金、給付金申請
- ・ホームページ
- ・オンラインサロン
- ・業務自動化ツール
- ・目視検査精度効率改善

新たな取り組みを進めている独立診断士が多い結果となりました。



コロナ後にご自身のビジネスモデルや強みを見直しましたか？

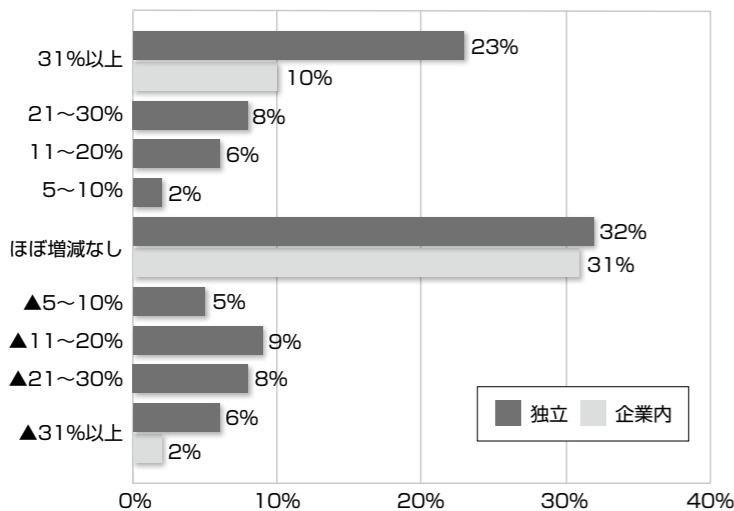


□具体的には？

- ・ビジネスモデル見直し
- ・オンライン活用
- ・リモートワーク
- ・BCP構築、知財、IT
- ・独立開業
- ・自宅作業効率化
- ・勤務先への提案、関連性

ビジネスモデルの見直しを進めた方が独立診断士で多く、環境変化への対応を自ら行う姿がアンケートを通して浮かび上がりました。

コロナ禍でのコンサルティング業務への影響について、2019年度と2020年度(見込み)のコンサルティング業務の売上の増減比率はどのくらいですか？



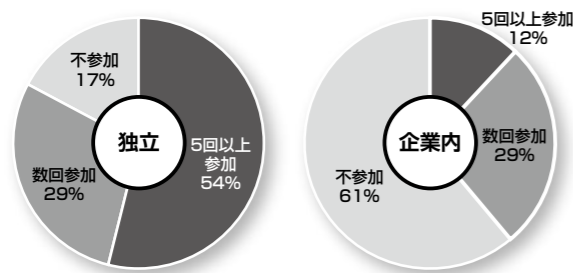
□増加した要因は？

- ・公的機関の支援、窓口業務
 - ・補助金、支援金、助成金
 - ・専門家派遣
 - ・セミナー依頼
 - ・企業が改革に動き出した
 - ・生産性向上のニーズ
 - ・オンライン活用
- 一方で次の回答も多い
- ・増加はコロナと無関係

(企業内診断士の売上なし58%を除く)

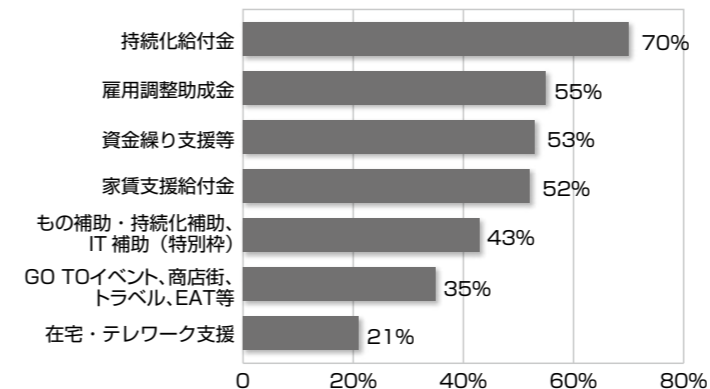
興味深いことが、売上の増減比率31%以上増加と回答した方の割合の多さです。対面での支援が行い難くなった環境下でもコンサルティング業務の売上の伸びが大きく、支援ニーズの高まりを感じる結果となりました。

持続化補助金、雇用調整助成金等のコロナ禍でダメージを受けた企業へのサポート業務には参加しましたか？



独立診断士の多くがサポート業務に取り組んでいます。企業内で5回以上参加している方もおり、活躍する機会を多く得られる環境であることが分かります。

コロナの支援策等で有効だと感じたものを教えてください。(複数回答可)

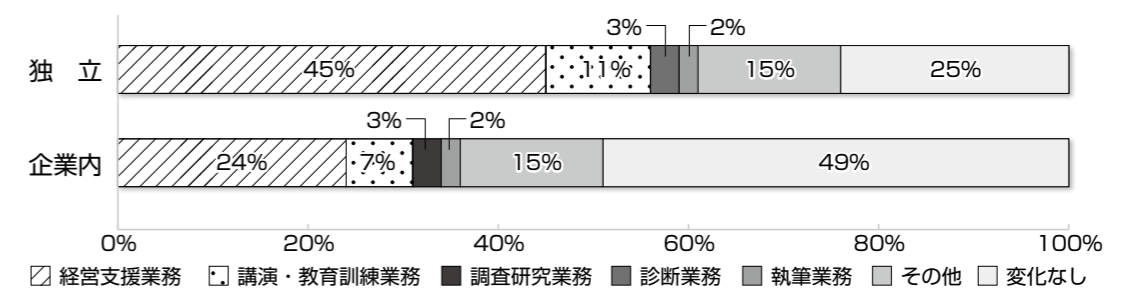


□(その他)自由記載

- ・経営計画の再構築
- ・行政の窓口相談
- ・経営相談
- ・日本弁理士会新型コロナウイルス感染症出願支援制度

事業継続に関わる支援策が有効という意見が多い結果となりました。

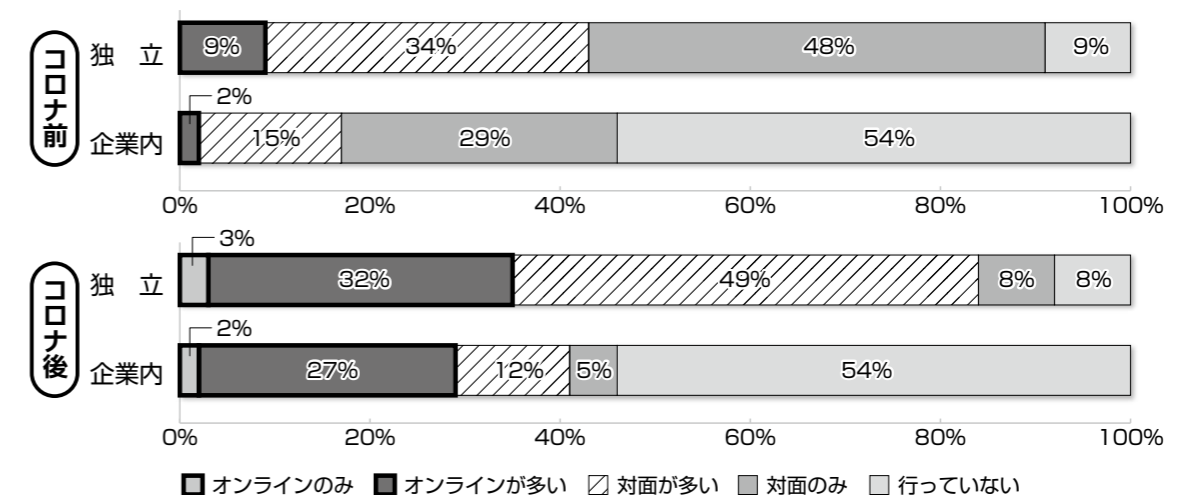
コロナ後に一番増えた業務は何ですか？



□(その他)自由記載

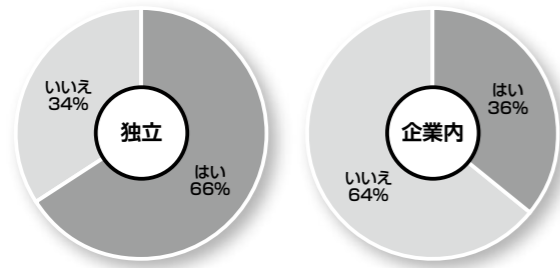
- ・補助金、給付金、助成金の申請支援
- ・補助金審査業務
- ・自治体への支援
- ・オンライン講義
- ・契約書のリーガルチェック、作成
- ・特許出願相談業務

コロナ前と後の「コンサルティング業務」のオンライン活用頻度の変化は？



独立、企業内共通してコロナ前は対面がほとんどで、オンラインのみは0%でしたが、コロナ後は、オンラインの活用が増加していることが分かります。企業内でコンサルティング業務を行う方の半数以上で「オンラインが多い」と回答しており、活動のしやすさが格段に上がっているのではないのでしょうか。

支援先や関係先の事業者で、コロナ発生当初は大変だったが現在は持ち直している、または伸びているところはありますか？



独立診断士の多くが「はい」と回答しています。コロナの影響を受けた事業者が協会の診断士の支援により回復しています。

支援先や関係先の事業者がコロナ前後で伸びているところとそうでないところに分かれています。伸びている要因として感じていることがありましたら教えてください。

要因をまとめると、次の4つに集約されました。

- 【環境変化に対応】 ビジネスモデル変革、取扱製品・サービス変更、改善、オンライン化
- 【顧客関係性強化】 既存顧客の囲い込み、ファン化、地域密着、バランスよい取引先
- 【経営者のマインド、強み】 前を向いている、先を見通す目、判断力、変える力
- 【既存の強み】 独自技術保有、優れたビジネスモデル保有

その他、伸びている業種として、「自動車関連、スーパー小売り店向け食品製造業、医薬品・生活衛生品卸売業、ウェブ制作業、電子産業、ステイホーム関連」が挙げられました。

支援先で、コロナ禍の対応で喜んでいただいた事例がありましたら教えてください。

事例をまとめると、次の5つに集約されました。

- 【給付金、補助金申請支援】 申請サポート、事業計画書作成指導
- 【資金繰り支援】 融資アドバイス
- 【デジタル化支援】 テレワーク化、効率化、IT運用から集客まで対応
- 【販促支援】 コロナ関連製品販促、通販
- 【窓口支援】 商工会議所等の相談窓口対応

事業者からの感謝の声や、「親身になって一緒に考えてくれるのが心強い」とリピートで支援に繋がる事例など、コロナ禍の対応での喜びの声が多数集まりました。

全体として

新型コロナウイルスの感染拡大により、環境の変化が生活様式を一変させる中、独立、企業内共にオンライン活用で自己研鑽を進める方や、サービス内容を進化させて活動する方など、柔軟に対応して活動する姿がありました。また、企業内診断士の活動機会の多さが現れていました。

事業環境の変化に曝されている事業者に対して寄り添う支援の広がり、実際に伸びに繋がった事業者からの感謝の声が聞こえる回答が集まり、千葉県の診断士の前向きな姿がアンケート結果に反映されていました。



編集委員 星野 盛雄

寄稿から浮かぶ独立診断士と企業内診断士の活動 コロナ禍の一年を振り返って

【独立診断士】 石井 伸暁さん

私は税理士法人での勤務経験から、財務・資金繰りの管理と小売・サービス業の販促支援に重きを置いて活動しています。コロナ禍に入る前から支援している創業段階の支



援先が複数ありました。当然体力はなく、事業の行方を不安視していました。私が創業段階の企業の支援をさせていただく時は、楽観・悲観の2パターンで収支計画を立て、月次で資金繰り管理と販促の実行支援をします。それが支援先の先へ先への対策へと繋がり、コロナ禍の外部環境に適合して、全ての支援先が業績を伸ばしたことが何より嬉しいことでした。支援の中で工夫した点は、営業・販売の非対面化が進む中、新たにデジタルマーケティングの知識を詰め込んだことです。支援を通じて実践を重ねたことが、支援先の成果と私自身の研鑽にも繋がりました。千葉県協会にもその筋に詳しい先生方が多いため、助言を頂いたことも多々あります。独立2年目でコロナ禍に直面しましたが、基本に忠実な支援を行い、自身に新たなノウハウを充足させることで、支援先とともに自身も成長できることを実感した1年でした。

力強く経営を行っている事業者様はコロナだから仕方が無いとはおっしゃらず、積極的に様々な事を試していらっしゃいます。

また、小規模事業者持続化補助金などの施策についても支援ニーズが増大しており、商工会にも様々なご相談が寄せられています。

このようなニーズに対応する新たな取り組みとして、非対面型での専門家支援も行っています。

地域の事業者様はITに苦手意識のあるケースがありますが、ビデオ会議システムの利用を職員が支援し、非対面で都市部の専門家の方の支援を受けられるという仕組みにより、感染予防と強力な支援を両立する方策として取組をおこなっております。

【企業内診断士】 西 優さん

社員15人のキャラクターグッズメーカーに勤務しています。商品の進捗管理の他、受発注からロジスティクス、人事労務会計まで、経営に関わることを広く担当させていただいています。



このコロナ禍の一年を振り返ってみますと、テレワークを行うために、社内のコミュニケーションツールを選定して普及に努めたり、社内のファイルサーバーのセキュリティを見直しつつVPN対応にしたりと、いつも着物を着ているくせにデジタルなことに力を入れていたように思います。

勤務時間外の診断士の活動では、持続化給付金や家賃支援給付金の手続きのお手伝いの他、小規模事業者持続化補助金の申請サポートを行ってきました。特に新規開拓は行ってなかったのですが、紹介の紹介で支援の範囲を広げられました。

コロナ禍で先行き不透明な状況が続いていますが、診断士として活躍できる場はたくさんありそうな手応えを感じています。

【企業内診断士】 岡崎 義広さん

私の勤務しております商工会は、地域に拠点及び会員組織を持っているのが最大の強みになります。コロナ禍において、なかなか対面型支援が行いにくい状況ですが、支援が行き届きにくい地域の事業者様に対して最寄りの支援機関としての役割を果たしています。



2021年 新入会員研究発表

1月16日 オンライン開催

今年も新春懇親会における恒例行事「新入会員研究発表」が行われました。今年度は、開催日の前週に再発令されました緊急事態宣言に伴い、はじめてのオンライン開催となりました。新入会員32人がテーマごとに6チームを編成し、半年にわたる研究に取り組みましたので、各チームのリーダーからテーマや内容、気づきについて紹介していただきます。

(☆印はリーダー)

Aチーム アフターコロナの中小企業支援について

メンバー：市川 尚人☆、川谷内 航史、清水 健介、富田 裕之、宮本 梨江、渡部 大志

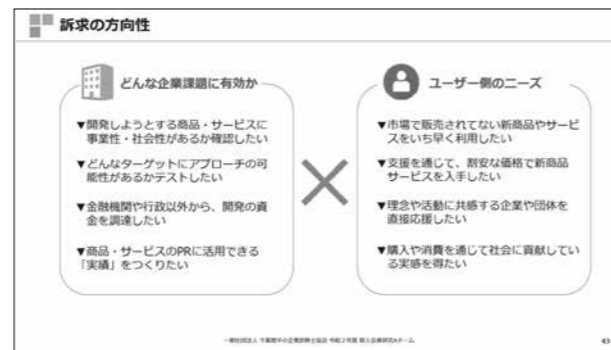


新型コロナウイルス感染症により激変した事業環境への再適応に向け具体的にどのような支援が可能なのかというテーマで、事例を中心とした研究を行いました。

取り組みはオンライン会議上で事前に共有していた課題を解決していくという方法で進めました。発表資料の作成もオンラインストレージ上で行いました。メンバーが事前に準備していた研究テーマがバラエティーに富んでいたため研究の方向性が定まるまで苦労しましたが、決定後はスムーズに進みました。

発表は2020年の経営環境について確認したのち、営業活動のオンライン化事例、新たなオンライン事業の開発事例、クラウドファンディングを活用したマーケティング事例、特例リスクを用いた事業再生事例の4事例について発表しました。

4事例目の発表が時間切れで中断してしまったことが大いに悔やまれます。発表者の清水先生には「(いつになるか分からない)リアル打上げ」で再度ご講義いただける様お願いしようと考えています。



Bチーム 千葉県協会の先生方の強み研究

メンバー：川島 洋行☆、正留 修一、松浦 圭太、小池 裕太、鈴木 園子



7月4日の「新入会員研究会」から、我々Bチームの熱い青春の日々が始まった、と言って過言ではない。その会議の場で、リーダー川島は言った。

「千葉県協会の先生方を研究したい」と。チームに激震が走った。なんて面白そうなテーマなのだ。この男はタダものではない。誰もがそう思った。

そして、インタビューの魔術師との呼び名の高い正留を中心に戦術を構築、石井先生、今井先生、川村先生、細野先生、茂木先生という恐れ多い5名の先生方との熱いインタビューを完遂するに至った。その後20回を超える会議を開催、最後の1か月は、制限時間にいかに取りめるか、分単位、いや秒単位、まるでスプリントもかくやといった戦いであつた。

そして本番。ベテランの川島と正留はもちろん、優等生の鈴木が好タイムを出し、茂木先生の熱さを伝えることに命を懸けた松浦、最後は元無職の小池が持ち前のクロージング力で有終の美を飾り、我々の青春の日々は終わりを迎えたのだった。



白熱した会議が連日行われた船橋市東部公民館



Cチーム 千葉県市町村の強み・弱み研究

メンバー：武田 倫邦☆、鈴木 直人、小塚 隆雄、木田 仁志、本家 正彦



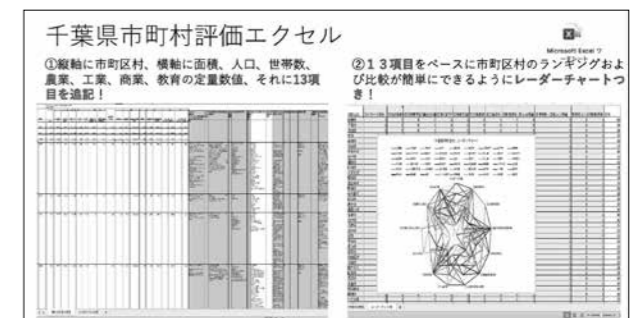
我々は、千葉県中小企業診断士として活躍するためには、千葉県の市町村を知る必要があります、このテーマを選定しました。

基礎資料は、公開されている統計データ「県内市町村の現況」の5年分を使用しました。

その後、各個人の興味ある分野を議論しながら、評価観点を検討しました。リモートでの打合せ、またメンバーの関心事、職業柄、年齢、お気に入りの市町村など多岐に渡ったため、評価項目の選定と評価に多くの時間を費やしました。最終的には13観点（スポーツ・特産物・教育・観光資源・商店街・路線商業地・大規模出店・工場・B級グルメ・人口増減・世帯数・昼間人口・財政）で54市町村を知る事が出来ました。

特に作成したExcelは、時間をかけずに市町村の強み(特徴)を把握できるのは利点だと思っています。

是非皆様にも活用して頂けたら嬉しいです。Excelについては、C班各メンバーが所有していますので、ご連絡いただければ幸いです。



Dチーム

Withコロナ時代のビジネスモデル

メンバー：高橋 繁夫、安田 一優、井上 雅仁、居戸 和由貴、岡田 知子



新型コロナウイルス下、リモートで開催された「新入会員研修会」でしたので、チームのテーマ決定に十分な討議もできませんでした。これから診断士としてどのように活動できるだろうか、漠然とした思いをテーマにした感じでした。

打合せは、3回リモートで実施しました。各メンバーの得意分野を担当してもらうことにしましたら、コロナ時代の現状分析と、サービス業（医療）、マーケティング、テレワーク（業務、システム）等の問題点や課題という構成になり、うまく纏まりました。コミュニケーション重視の労務管理、リモートワーク化、WEBマーケティング、クラウド化等の方向性が見えてきた感じです。

リモート打合せで、コミュニケーションやツール活用等の難しさを体感したことになりましたが、メンバーの皆さんのご協力で、無事終了でき感謝です。



Eチーム

コロナ禍におけるSNS（ブログ）を使った情報発信の研究

メンバー：藤本 卓、仁志川 武史、高橋 寛、青木 将貴、波多江 敏彦、土田 智久



このコロナ禍で、インターネット、とりわけSNSを利用した情報発信は、中小企業にとって非常に重要なツールです。

そこで私たちはブログを開設し、8-9月は「千葉県」11-12月は「診断士への道」をお題とし、曜日ごとに担当ブロガーを設定し、延べ15週間、計90記事を投稿しました。

そして、前半2ヶ月で浮き彫りになった問題点を後半で改善する、診断士らしい(?) 分析と対策を実行しました。結果、後半は前半より

- ◆訪問者数を1割増
- ◆滞在時間を伸ばす

といったSNSでは重要な項目の改善効果が得られました。

活動を終え、『目的意識』を持つことや『誰に何をどのように』伝えるかといった診断士活動でも重要な考え方がブログ投稿でも重要だと分かり、ブログ投稿が診断士力アップの訓練にもなると感じました。

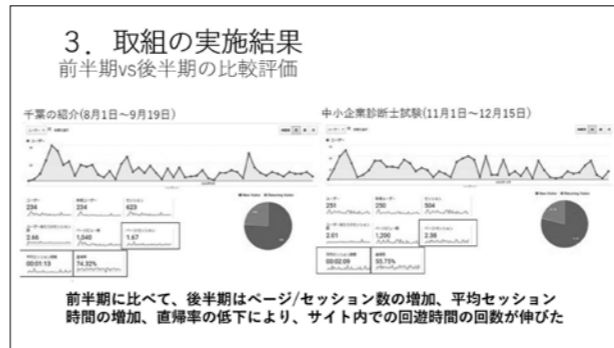
1. ブログツールの選択

- WORDPRESSを使用。
 - 理由は、有料だが
 - 自分のドメインを持つことができる
 - ⇒無料ブログはいつ消されるかわからない
 - 検索エンジンで上位に表示されやすい
 - ⇒無料ブログは上位に表示されにくい
 - サイトに広告が入らない
 - ⇒無料ブログは一等地に広告が貼られる

2. 解析ツールの選択

GOOGLE ANALYTICSを選択

- 本格的な分析が可能
 - ⇒概要から細かいところまで、リアルタイムの分析が可能
- 情報が充実している
 - ⇒分からないことがあればGoogleで調べられる
- 無料
 - ⇒無料より安いものはない!



コロナ禍で未だ対面を果たせていない担当ブロガーの皆様と集まれる日を楽しみにしています！ありがとうございました。

Fチーム

コロナ禍による企業変革の成功事例

メンバー：関谷 満、遠藤 啓治、持塚 義典、北島 徳一、幕田 行雄

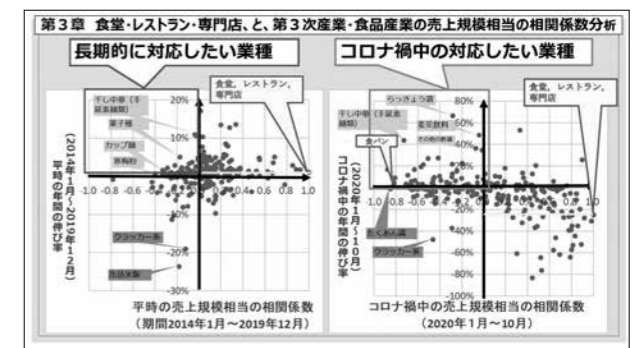


新型コロナウイルス感染症の影響により大きな社会変化にある中、特に飲食店は来店客が大幅に減り、厳しい経営状況から抜け出せずにいます。私たちのチームは、劇的な社会変化の中で、飲食店がこの変化に対応し、成功した事例を研究し、それを発表したいと考えました。これらの成功事例を共有することで、まだ変化に対応しきれない企業への参考事例になると考えたからです。

ミーティングは全てzoomで実施し、最後までリアルで集まることはなく、コミュニケーションが難しい部分もありましたが、最終的にはメンバーで上手く役割分担をして、無事に発表することが出来ました。また、全てzoomだけで完結するという社会変化に私たちが対応したことも良い経験となりました。今後いつまでコロナの影響が続くか全く不透明な中、今回の研究を通じて学んだことを、中小企業の支援に役立てて行きたいと思えます。

我々Fチームは、コロナ禍において苦境にある飲食業にスポットを当て、成功事例を探り、次の一手の参考になればという思いで発表させていただきます

道具(モノ)の活用	地域SNS ピアザ活用による変革	遠藤 啓治
自社の強みを更に強化	飲食店と食品製造業の兼業による生産性向上 ~変革の成功事例~	北島 徳一
統計データ活用	多角化戦略の立案時の統計データ活用手法の提案 ~飲食業を中心にした検証~	幕田 行雄



リーダーの皆様、原稿作成にご協力いただき、誠にありがとうございました。

また、はじめてのオンライン開催に伴い、ご準備いただきました研修部の皆様、大変お疲れ様でした。



編集委員 松村 浩伸

令和2年度 千葉県中小企業診断士協会

新体制のご紹介

令和2年6月5日の「第9回定時社員総会」にて承認された役員により、新体制が発足しています。千葉県 協会の会員の皆さまの発展のために尽力しています。

①診断士登録年度 ②協会役歴 ③独立 or 企業内 ④他士業等保有資格

